

石 巻地方で110年間、夕刊を発行している石巻日日新聞社の運営施設。災害時の情報のあり方、伝え方などを知ってもらおうと、新聞創刊100周年を記念し、開館しました。館内では、防災翌日の3月12日から17日まで避難所に貼り出した手書きの壁新聞(実物)を公開。これは新聞社が被災し、印刷不可能となった状況で書き、避難所に届けたもので、被災した住民に地域の情報を伝えるために制作した号外でした。地域情報を伝えるという使命を全うした、新聞社の仕事に対する責任感をひしひしと感じられます。震災当時の記者が手書きの壁新聞などについて解説してくれる講話(有料、要予約)も実施。当事者だから語れる震災の様子、心情に耳を傾けましょう。被害状況を記録した報道写真の展示からは震災直後の石巻の状況がわかり、自身の災害への備えを見つめ直すきっかけをくれます。



「各地より救難隊到着」「電気からライフライン復旧へ」「全国から激励メッセージ」「電気復旧1万戸超す」などと、日を追うごとに少しずつではあるが、状況が好転するような見出しが目につく



「ニューゼ」とは、「ニュース」とフランス語で博物館を意味する「ミユゼ」を合わせた造語で「ニュース博物館」という意味。被災していた最中でも新聞社として地域のニュースを伝え続けた



石巻市の被災状況を、3月11日から時間を追って展示。写真にはそれぞれ説明が添えられているので、震災当時の様子がよくわかる。語り部ガイドは所要30~60分、**1000円**(学生500円)※要予約

考えてみよう

Q1 3月12~13日の壁新聞には「正確な情報で行動を!」というメッセージが書かれていました。この言葉に込められた、新聞社のメッセージとは?

Q2 手書きの壁新聞は多くの被災者に読まれ、心の支えとなりました。震災当時、情報を得るためにはどのような状況だったか考えてみましょう。

A1 災害時にはデマが流れることも。情報を鵜呑みにせず、見極めることが重要だということ。

A2 発災直後は、地域全体が停電となり携帯電話も通話不能になった。身近な情報さえも知ることができなかった。

●いしのまきし
石巻市

●きずなのえき いしのまきにゅーぜ
絆の駅 石巻ニューゼ

被災地や住民の支えとなった手作り壁新聞

石巻市の被害状況

最大震度 6強

浸水面積 73km²

最大浸水深 25.99m

全壊 20,044棟

半壊 13,049棟

一部損壊 19,948棟

死者 3,553人

行方不明者 417人

負傷者

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.11下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

展示
交流拠点

語り部あり 車椅子OK
※要予約

施設DATA

●きずなのえき いしのまきにゅーぜ
絆の駅 石巻ニューゼ

☎ 0225-98-7323 MAP P114D3

📍 石巻市中央2-8-2 ホシノボックスピア1階

🚶 JR石巻駅から徒歩10分

🕒 11~16時

📅 休・木曜

🆓 無料

📍なし ※徒歩圏内に市営駐車場あり

🌐 <https://hibishinbun.com/newsee>